

東北最大級の城柵・赤井官衙遺跡

だいたい

おしかのさく

牡鹿柵造営1300年 企画展

おしかのさく
牡鹿柵と

考えられる赤井官衙遺跡から出土した

かんがいせき

重要遺物を一挙公開！



多賀城とほぼ時を同じくして造営された「牡鹿柵」。

おしかのさく

2024

2025

11/2_[土] ▶ 2/24_[月] 祝

奥松島縄文村歴史資料館

【入館料】一般400円 / 高校生300円 / 小中学生150円

【開館時間】9:00 ~ 16:30 (20名以上で団体割引あり)

【休館日】水曜日、年末年始(令和6年12月28日~令和7年1月3日)

講演会のお知らせ 「道嶋氏の台頭と陸奥国」

日時：2025年1月19日(日) 13時から

場所：赤井市民センター(申込不要)

講師：吉野 武氏(宮城県多賀城跡調査研究所 所長)



東北最大級の城柵・赤井官衙遺跡

だいたい

おしかのさく 牡鹿柵造営1300年企画展

国指定史跡の赤井官衙遺跡は、近年の発掘調査によって古代の城柵(軍事・行政施設)の外郭とみられる材木跡跡や大溝跡が発見され、『統日本紀』にみえる牡鹿柵であることが明らかになりつつあります。城柵内部では、郡家の正倉の可能性のある「倉庫院」、郡の長官である丸子・道嶋氏の館と考えられる「館院1」、国司の館の可能性のある「館院2」が確認され、これらも城柵の主要な施設であると考えられます。

牡鹿柵は、当時の朝廷と蝦夷の境界に位置する多賀城と関連が深い城柵であり、その造営時期も多賀城が造営された神亀元年(724)とほぼ同時期であると考えられています。

この度の企画展では、赤井官衙遺跡から出土した外郭材木堀の柱材を初めて公開するとともに、官衙的な性格を持つ遺物を中心に展示します。また、牡鹿柵に勤務した官人の墓所である矢本横穴から出土した遺物も併せて展示します。



都で勤務した役人を示す土器
「社人」黒書土器



牡鹿郡の集落が書かれた土器
「上郷」黒書土器



関東からの移民を示す土器
関東系土師器



荷物の送り状
「海道二番」荷札木簡



役人が使った円形の硯
円面硯



金銅製の金具がついた豪華な刀
金銅住玉頭大刀(矢本横穴出土)



役人が正装するときのベルト
革帯(矢本横穴出土)

多賀城創建 1300 年記念 古代東北の城柵「御城印」を配布しています

724年に創建され陸奥国府が置かれるなど、古代東北の政治・文化の拠点となった多賀城は今年で創建1300年を迎えました。

これを記念して、東北の8つの古代城柵が連携して、多賀城創建1300年記念の御城印が制作されました。



※東松島市では牡鹿柵のみの配布となります。

各城柵 1300 枚限定 ※なくなり次第配布終了

【東松島市配布場所】 ■奥松島縄文村歴史資料館 ■赤井市民センター

